21班　地域資源マップ（三日月原地区・湯の本地区西部）

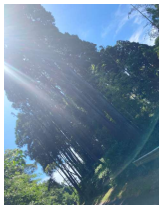
・植物・植生関連

1　この2つの地区では、各地で畑でキャベツを栽培している様子を見かけることが出来、上の写真のように収穫直前のものや黒のシートをかぶせ栽培の準備をしている様子も見られた。また、畑近くの倉庫では近所の住民たちが話をしながらキャベツの包装作業をしているところもあった。しかし、若手の農業従事者は見ることはほぼなかった。

2　北部の山間部や住宅地の近くの所々ではトウモロコシを栽培している場所も見られ、北部の畑は規模も広大であった。そして、北部の山間部には牛舎も２件見ることが出来、食用と家畜用の両方の用途で栽培されていた。

3　果樹園
ブドウや西洋ナシ、キウイフルーツが栽培されていた。しかし手入れがされておらず、荒廃してしまった果樹畑もあった。

4　この地区の南部のほうには、茶畑が存在しており、2件と数こそ少なかったものの1つ1つの規模は大きく防霜ファンなど設備もしっかりとしていて、畑もきちんと管理されていた。



5　山間部には、人工的に植林されたスギ林が2か所ほど見られた。枝処理などの整備もきちんとされているように感じた。

6　山間部や南部の農地に出るところには竹林があったが管理が行き届いてる様子はなく乱雑だった。また、ニガキの林もあったがこちらは、等間隔に植林されていて管理が十分ではないものの最低限はされていた。

7　キャベツなど広範囲で栽培されているものとは別に、家庭菜園の範囲でイモ類やキュウリなどの野菜が育てられていた。

8　この地区の通りにおいても植物が生い茂り、ある区分には問題はないように感じるが車両が通る際には擦りそうで危ないと感じた。また、歩く際にも毒虫にも注意を払うべきと感じた。

・施設、土地利用状況

1　グラウンド
国民年金の積み立てによって建設されたが、使用されている様子はなく、荒廃していた。
この状況から推察すると、昭和60年に建設されたこのグラウンドは、この地区の人口減少とともに廃れていったのではないだろうか。

2　湯の本　無人販売所
ミニトマト、土、苗、ワラビや薪などが販売されていた。近くに畑が多いため、販売する方も購入する方もは近くで利便性が良いと感じた。しかし夏など長時間外で野菜を販売することで痛む可能性がある。長時間保存ができる機能が必要ではないかと考えた。

3　トライアル
都農町に住んでいる人や美々津や川南の住民の方々も利用している。駐車場が広いため多くの車が駐車できる。多くの人が利用しているが、都農の経済そのものの発展につながっているわけではないということが課題であると考える。

4　ソーラーパネル
多くの場所にソラーパネルが設置されていた。いろいろな事業で使われており、大変設置範囲が広かった。余っている土地に設置することで、土地を有効活用でき、さらに環境にやさしい再生可能エネルギーを生産するためエコな取り組みであると考えた。ソーラーパネルだけではなくほかの土地の利力法を考えなければならないと考える。

5　三日月原公民館
公民館は存在していたが人気はなかった。開拓記念碑が設置されていた。防災倉庫が設置されているなどこの地区の防災を担っている場所でないかと考えた。

6　不法投棄の看板
この地区の北部の森が生い茂っていたエリアには、不法投棄を禁止する看板が何か所かにおいて設置されていた。この付近にはごみの不法投棄はなく管理が行き届いていると考えられる。

7　三日月原地区の野菜の直売所
道路の道沿いにあり野菜だけでなく野菜の苗や畑の柵も販売していた。この付近には多くの商店が店を構えていた。この直売所から少し離れたところにはNPO法人や材木屋、公民館、アトリエなどがありこの付近は住民の交流の場になっていると考える

8　ＮＰＯ法人仁秀会　たいよう
野菜の直売所や公民館、商店の近くにあった。このＮＰＯ法人の事業内容としてはグループホーム、デイサービス、居宅介護があり、この付近の高齢者の方々のサポートをし交流の場を設けてくれる存在であると考える。

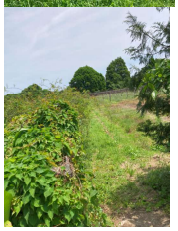
9　AZホテル
普段はあまり人の出入りはなさそうであった。地域に宿泊施設が存在しているので、このような宿泊施設と連携してイベントなど考えていくことが大切だと考える。都農で宿泊してもらうことでより魅力が伝わるようなツアーなど考えていきたい。

10　三日月原地区には、2か所ほど自動車整備場があったが、どちらもシャッターが閉まっていて使われている気配は微塵も感じられなかった。

～実習を通しての気づき・この地区の課題～

今回の三日月原地区・湯の本地区西部の探索実習を通して、実習範囲の北部には木が生い茂り自然が豊かな土地であり、トウモロコシ栽培用の農地のほか牛舎も存在しており畜産業としても土地利用されていた。しかし、存在している牛舎は規模は大きくなく牛の数こそ少なかったものの管理をしている者の姿を見ることが出来たが一つの牛舎はまだ若めの人であったがもう一方は、高齢のおじいちゃんが管理をしていた。加えて、そのおじいちゃんは付近の草刈りも自身でやっていた。2つの牛舎に共通している課題は、どちらも管理に携わる人員が不足していることだと感じた。さらに、おじいちゃん1人で牛舎の管理に加え近辺の整備も行っていたため、やはり高齢化の問題も当然無視することはできない。また、牛舎以外の近辺の自然林においても草刈りなどの管理がされている様子も一切感じることが出来ず、草木が生い茂っていた。その為、見通しが悪いという課題もありカーブ前に設置されていたカーブミラーや「とまれ」の標識についても生い茂る草木が原因で見にくい状況となっていた。同時に蜂や毛虫といった毒虫も確認でき、注意喚起やある程度草木の伐採が必要であると感じた。三日月原地区南部には様々な野菜や果物を育てている農地がたくさんあり規模も大きかった。しかし、ここにおいても我々のような若者の作業している様子は見ることが出来ず、農地の整備をしている場や収穫作業をしている場、包装作業をしている場においても中年の人々から高齢の人たちと年齢の割合は高めであった。しかしながら、作業している様子は楽しそうであり、作業中であったため直接お話を聞くことはできなかったが、住民同士で話をしながら作業している様子を見ることが出来、住民同士の交流は盛んであると感じた。しかし、数多くある農地でも、中には管理を放棄され雑草が生え茂っていて耕作放棄地となっていたものも多くみられた。果樹園においても高齢化や人員不足が原因で、形を保たまま廃れて言った形跡の元果樹園も数件見られた。しかも、三日月原地区には廃屋も見られ管理が行き届いていないように感じた。農地などがたくさんために水路も必然的に通っているが、湯の本地区西部の水路はしっかりと水が流れていて水質もきれいであったが三日月原地区に流れていた水路は枯れているものや1㎝にも満たない水量のものが多くみられた。

また、探索地区の入り口にあった大型スーパーのトライアルに関しても、お客さんはたくさん訪れていて車の出入りも頻繁であった。しかし、そこでお金を使うことが果たして都農町の活性化につながるとは思えない。そのお金は都農町に落ちるわけではないからだ。その為にも、トライアルだけに客が集中しないように都農町にしかない商店や都農町の商品をメインで扱う店などに積極的に近隣住民のほか訪れた人が利用する環境づくりが大切だと感じた。都農町の経済的背景をしっかりと考えていくことが都農町の経済成長そして、地域活性化にもつながると考えた。

さらに、この探索地区は農地としての土地利用がほんとに多いと感じた。しかしその反面、耕作放棄地も多くみられ雑草は伸び切ってしまった空き地にはこのまま廃れていくのかという危険を感じた。整備して再び利用できるようにしたり農地以外の別の形での再利用したりなどし、活気づけていくうえで雰囲気の面で大切だと考えるため、土地の利用状況が課題だと考える。そして、せっかくの自然が豊かであり貴重な地域資源を持っている。それを生かした環境整備を目指していくことで、新たな資源の価値を見出せると考えた。トライやるの付近にあったホテルとも提携していくことも活性化の一歩となると考えた。

最後に、探索地区まで歩きで向かったが、駅から遠ざかるにつれてバスやたくさんあったお店がなくなっていった。探索地区に行くまでにも徒歩で20分弱要し、バスもコミュニティバスが多くない頻度で走っているだけで、車なしの生活には不便が生じる。これまでの記述にもあったが、この地区にかかわらず町全体で高齢化の問題がある。都農町の住民基本台帳によると、２０２３年における６５歳以上の高齢者の割合は３９．２％であり、高齢者の事故が相次ぐ中、交通機関の発展も解決必須の課題だと考えた。